

# 認知症高齢者グループホームにおける重度入居者の過ごし方の特性と空間の評価

日本建築学会計画系論文集/ No. 629/ pp. 1449-1456/ 2008年7月

正会員 黒木宏一君

本論文は、認知症高齢者グループホームにおける重度入居者の症状の経年変化、過ごし方の特性についてその行動と発言を平面図と対応させて把握し、空間構成を評価している。さらにその特性を踏まえた具体的な計画的知見を導き出し、結論として、個室廻りの居場所を充実させる点、個室の開放性と他所との連続性、外部空間との開放的な接続性、多様なそなえを可能にする室内計画、コミュニケーションを生み出す共用空間の規模、ターミナルケアに対応した共用空間の個室の計画を挙げている。

この論文は、従来の中・軽度の認知症高齢者への対応が主であったグループホーム計画からの脱却を図ろうとしている点で、先駆性と萌芽性が認められ、新たな計画手法の提示にも現場情報に裏打ちされた説得力をもつものと高く評価された。